

南小樽ブロック

会 場	参加者からの質問・意見		教育委員会からの説明
量徳小	1	<p>【病院局の説明を受けて】 今の時点で市の方で何も決めていないのに、何を説明するというのか。市として、統一した意見を基に適正配置、病院を語るべきではないのか。</p>	<p>市として、特に建設地について具体的な決定には至っていないが、新聞報道や議会での質問、地域の方からの問い合わせもあり、適正配置の説明をしているところで質問が出てきたときに、病院や市長部局の立場からその報道の経緯等について、説明しないとならぬだろうと思った。我々の方で色々な課題を整理して、方向を決めてから来るということではなくて、地域の方などの意見を聞く場を設定していこうということの説明と、この事を説明しないと今日の適正配置の説明が進まないのではないかとことを思い出席しています。</p>
	2	<p>【病院局の説明を受けて】 (意見)量徳小学校は、病院関係者に取っては良い場所だと思いが、学校関係者にしても良い場所だ。話し合いを病院だけ、学校だけ(と個別に)するより地域、学校、病院が集まって話ができればもう少し何かできるのではないかと。それと、二者択一ではなくて、学校も病院も建てるのだという新しい案も考えてもらいたい。</p>	
7月2日	3	<p>量徳から中学校へ行くときにはほとんど菁園中学校へ行くと聞いているが、この計画ではブロックが違うがどうなるのか。</p>	<p>小学校と中学校の校区が全く重なっていないということから、ブロックをまたいだ形で現在の通学区域があるという実態があるため、隣接するブロックとの兼ね合いも含めて統合校の位置を考えていかなければならないと思っている。実際に通学区域を考える際には、線の引き方、考え方でやった時の規模、人数などを教育委員会が一方向的に決めるのではなく、幾つかの案を示しながら、実際に統合校をどこにするか決めていかなければならないと思う。また、量徳と菁園との関係では中学校との兼ね合いもあり、南小樽地区と、中央・山手地区とでそれぞれで考えながら並行してやっていかなければならないと思う。</p>
	4	<p>17Pに中央・山手地区の学校の様子が載っているが、量徳小から潮見台中に通う子は少ないと思うので、中央・山手地区の小学校に量徳小が入っていない表に意味があるのか。</p>	<p>素案の最後のページの地図に実線と破線で小中学校それぞれの校区を表しているが、量徳小の通学区域の真ん中に中学校の境界があり、若竹小も同じように中学校の境界で通学区域が分けられている。このように小学校だけでなく中学校も併せて考えていかなければならないところが市内に何か所かあるので、それを頭に入れながら話し合いをしていきたいと思う。</p>

南小樽ブロック

会場	参加者からの質問・意見	教育委員会からの説明
量徳小	<p>5 今年の3月6日の北海道新聞に、41校の小中学校が、21校に大幅減と報道され、15年間で、20校減らすとっていますが、前期に該当する南小樽地区はいつ発表するのか。</p>	<p>どこの学校をいつ統合し、それをいつ発表するのかについては来年度からブロックごとで協議をしていき、その中で、統合の組み合わせ、統合の時期、統合までの準備期間も必要になるので、そういったものを考えて統合の時期を決めていくことになるが、これは教育委員会だけで決めていくというやり方ではなくて、今回市内全体を同じ基準の下で統一して考えていきたいということで、今の段階でこのブロックでどこをどうするというような計画ではない。</p> <p>教育委員会としては何とか今年中に素案を計画としてまとめて、22年度から地区ごとの具体的な協議に入りたいと思う。地区ごとに、どういう事を議論するのかについて、素案の13P「5 実施計画の策定」(2)に4項目記載している。統合の組み合わせとか、統合学校の位置、統合学校の位置の次に通学区域がどうなるのかについて決め、そして、統合へ向けてのスケジュール、6つの地区でそれぞれ統合へ向けての地区段階の協議をさせていただくということになるので、例えばA地区は、平成23年度からスタートするが、B地区についてはもっと後になる、あるいは小中学校の兼ね合いもあるので、小学校は後になるとかもちろんその逆もある。このように、いつになったら学校名や具体的な時期が出るのかは来年からの地区単位の協議でご意見を伺いながら進めていきたい。</p>
	<p>6 4P学校の建築年数に昭和30年代の学校として3校が載っており、その中に量徳小学校があるが、実施計画の策定に関してはあくまで13Pの考え方で進めるとするならば、建物が古いから、耐震補強をしてもだめだから壊してしまうことは考えないということか。</p>	<p>基本的に古い学校をなくして新しい学校を残していこうという考え方を持っているわけではない。まず、通学距離やグラウンドなど教育環境を考えてどこの場所が一番好条件かという議論をしていかなければならない。その上で学校が築30年位でまだ持つけれど耐震補強が必要なら補強をしていかなければならないし築50年以上なら建て替えをしていかなければならない。12P④にあるように統合学校の場所として通学区域内のバランス校地・校舎の状況、通学の安全を条件に考えていく。</p>
	<p>7 大規模校7校について耐震診断をやるようだが、規模が大きく残る学校だけを診断していくのではなく、全ての学校を一斉にやるべきではないか。古いところから手をつけない理由はないか。</p>	<p>41校の中で、56年以前に建てた棟は100棟ほどある。これを全て一斉にやるということは財政的にも難しい。また耐震化には、耐震診断に6か月、実施設計にさらに6か月を掛けてそれから工事に取りかかることを考えると、時間も掛かかるので、一定の基準、一定の順序で進めていく。また、築40～50年の学校については改築を考えていかなければならず、一度改築すると50年は使うことになるので適正配置計画の中で議論を進めているところです。</p>

南小樽ブロック

会場	参加者からの質問・意見	教育委員会からの説明
量徳小	<p>8</p> <p>量徳小は今後の児童数の推計を見ても南小樽地区の中で一番多く、利便性の高い地域なので残ると思う。小樽病院とどう向き合っていくのが重要視されていく中、人数も多く、場所も良い学校をなくすには理由がないのではないかと。それと南小樽地区での統廃合の際、量徳小が残って天神小、奥沢小がなくなった場合、スクールバスの導入は考えているのか。</p>	<p>前段の話については、22年度以降ブロックの話の中で、子供の数も含めて大きな要素の一つだと思う。あと、この計画の基本方針の部分で7P⑧に「通学時のバス利用」について記載があり、具体的にどうバス利用をするかについては、通学区域を実際に決めて、通学経路がどうなるかによって、それぞれブロックごとに違いを考慮しながら実施計画の段階での具体的な話合いになると思うが、学校再編にともなって必要が出てくれば、一つの前提として考えていくことになる。</p> <p>前段お話があった点については、ご意見として聞きたいと思う。ただ、もしそういった協議をする場が必要になってくる場合は、病院も、市長部局も、教育委員会も一緒になって議論する場面を設定して議論をさせていただきたい。</p>
	<p>9</p> <p>これから小学校に子供を入れる保護者から「量徳がなくなるのでしょ」「病院が建つのでしょうか」という話を聞く。学校がなくなることを見越して潮見台小へ指定校変更があるということも耳にする。住吉中、真栄保育所もなくなり子供の数は減っている。町内会の士気を高めるため若い親を連れてこなければ活気がなくなる。</p>	<p>量徳小としては児童数はそれほど減っていないが、地区としては相当減ってきている現状がある。学校規模について一定の基準を設けて、この地区の2校の位置が一番どこが良いのか来年から議論をしていきたいというのがこの計画の趣旨である。また、量徳小と潮見台小の間の指定校変更の状況を見るとお互いの行き来があるのが現状だ。特認については一定の基準での認否をしているので制度として理解していただきたい。</p>
	<p>10</p> <p>15年という長いスパンの中で行っていくということであれば、改築ではなく新築することを計画に盛り込んでほしい。</p>	<p>改築という言葉を使っているが、新築、要するに建て直すという意味です。</p>
	<p>11</p> <p>耐震化の問題にしても、通学距離の問題にしても市が財政的に余裕があれば解決できることだと思う。子供のための学校再編というけれど「お金がないからやります。」とはっきり言った方が良いのではないかと。また、病院問題とか学校問題とか言わずに市としての全体の将来構想を決めてから説明会に臨むべきではないかと。</p>	<p>学校の耐震化については(再編と)併せて進めて行かなければならないが、必要などころには手を付けていかなければならないと思っている。この計画の背景には、S33年には41000人の小中学生が今年8800人を割り込みまして、今年8800人になっているという現実があり、学校は近い方が良いと思うが、再編成は考えていかなければならない。</p>
	<p>12</p> <p>資料を作成する際、校舎の建築年については主要な部分がいづできたのかに着目してほしい、また児童生徒数については学年ごとに見ることも必要ではないかと。</p>	<p>来年からの地区ごとの議論の時には詳しい資料が必要になってくるのでその時は提示したい。</p>

南小樽ブロック

会場	参加者からの質問・意見	教育委員会からの説明
量徳小	<p>13 子供が減っていくことは残念に思う。子供を増やすためにどうしたら良いかという視点で考えてほしい。</p>	<p>人口問題では雇用や経済の状況の影響が大きいと思う。行政としてやれることをやっていくのはもちろんだが、教育環境の向上も住む町を選ぶ時の条件となるので、教育委員会としても施設面だけでなく教育内容など色々な面での教育環境の整備を進めていきたい。</p>
	<p>14 (意見)花園小学校の地域と量徳小の南小樽地域を比べると山の方が雪が多い。雪の多い方に向かって子供たちを通学させるということが懸命なやり方か。量徳小学校を廃校しようという魂胆が見ええだ。</p>	
	<p>15 統合の際は子供のことを中心に考えてほしい。堺小から花園小、稲穂小に移った時に、転入生と見られて受け入れられなかった子供もいた。</p>	<p>心のケアの問題では、子供たちの不安をなくすため、事前に時間を掛けて交流事業に取り組む。また、統合した後はスクールカウンセラーを活用しながら進める。保護者、地域の協力も必要です。</p>
	<p>16 (要望)企業管理者に伝えてほしいが、小樽病院の建設予定地を決める時には、学校再編でなくなる他の学校の敷地も視野に入れて検討してほしい。今の段階で、量徳小学校の名前が出れば、学校再編に関係なく病院のために犠牲になるとらえられるので出さないでほしい。</p>	
	<p>17 菁園中のグラウンドは狭い。住吉中の統廃合の時にどのように考えていたのか。快適な学校を作るのならあらゆるスポーツ活動のことを考えてほしい。</p>	<p>12P④で統合学校の場所について、場所を決める時の条件を挙げているが、特に中心部では平坦で広い土地を確保できるかが問題になる。統合校の場所を決める時は多角的な検討が必要になるので、限られた選択肢の中で最善の場所を選ぶ協議をしていきたい。</p>
	<p>18 前回の適正配置の時には量徳小がなくなるという噂が先行して子供たちはかなりのストレスを受けた。今回も新聞報道でこの様な報道があると量徳はなくなるという決め付けが出てくる。報道を撤回してほしい。今の段階で量徳小の名前を出すのはやめてほしい。</p>	<p>市としてもう決めたという事ではない。もしそういうことがあるならば、きちんとした説明の場は決める前に、皆さんとお話をしていかなければならないので、そういうスタンスだ。報道機関もできるだけ子供が不安にならないような記事をお願いする。</p>

南小樽ブロック

会 場	参加者からの質問・意見		教育委員会からの説明
奥沢小	1	この地区の具体的な案はいつ出るのか。地域の声を聞く機会を設けるのか。今回の説明に地域が相談して要望を出す機会があるか。	素案では、学校再編が必要でその際のポイントとしてブロックごとに子供の数、施設の状況を考えていこうと土台を示し、それが基本計画だ。次の段階がブロックごとに実施計画という具体的なものを22年度からつくる。13Pに4点あげた。それらは、教育委員会で案を提示し賛否を問うというより、皆さんとの意見交換で積み上げたい。22年度に入り呼びかけるが、素案についてはこの説明会以外で、後日(町会で)話し合っって計画に活かしたいということがあれば出向く。秋にパブリックコメントの機会も用意している。色々なチャンネルを通じて(理解を求めながら)基本計画を年内につくりたい。
5月18日	2	実際に学校が残る、なくなる、通学区域はどうなるなどの具体案が出ないとピンとこないのではないか。ある程度原案を早く出しても良かった方がいいのかなという気がする。	説明会では、全市で再編成するということをお分かってもらい、その前提でブロックごとに、例えばA案、B案、C案というものがあれば、22年度から地域で話し合う。市内全体の再編計画なので、1、2年で終わらない。話し合いを積み重ね、その話しが進めば前期8年の中でも早い段階で統合が進む、というイメージを持っている。
	3	奥沢小も私たちの時は1500人で今はその9割減。色々考えなければならぬのは当たり前で、ここ(素案)に書いてあることが当然。ただ、みんな通学距離のことを心配するのではないかと。単純にここここが無くなってここに統合されるという案を早めに出してあげた方がいい。	教育委員会は、学校再編の必要性、どういう規模の学校かについての基本的な考えを今回示した。また、6ブロックに分け1クラス30人で積算し何校必要かとし、南小樽地区は小2校、中1校となった。次にこの(小)2校はどうするかという議論。それは今日の段階ではなく、(基本)計画が決まり、22年度からと思っている。「やるならさっさとやればよい」と思うかもしれないが、この地区の学校は全体に近距離にあるが、忍路・塩谷方面は5km、10kmだ。まず、基本的な考えの理解の上で22年から議論したい。議論の際は、「皆さんどう思いますか」というやり方もあるし、「2校をここしたら通学はこうなり、バスをどうする」という議論の仕方もある。全体的に(素案の基本的な考えの)理解をもらわないと次のブロック議論に進めないと思っている。
	4	(意見)「どこの学校がいいですか」という聞き方ではまとまらないと思う。教育委員会でここにしたいと明示し、それをたたき台に進めていくのが一番良くそれを早くしてもらった方がよいのではないかと。思います。	これからの進め方、考え方について意見をもらった。今日は素案の説明会であるが、次のステップに意見として生かしていきます。

南小樽ブロック

会 場	参加者からの質問・意見	教育委員会からの説明
奥沢小	<p>5 (意見)南小樽地区は小2、中1とのことだが、財政的なことを考えれば既存の学校施設を利用せざるを得ないが、地域では近い方が残ればよいということになる。また、新しい校舎が優先されることが話しに出ていないが、耐震もあり当然考えられるべき。また、少子化の中で、スクールバスを利用し中学校は2校くらいのマンモス校を作ったらどうか。</p>	<p>— 大きな学校についてだが、素案で小12、中9で上限18クラスとした。スクールバスを使うと通学できるが、グラウンドや体育館、理科室など回しきかなくなり、(今回の適正化の狙いと)違う課題が出る。また、グラウンドの実面積も広くはないので、マンモス校は作りたくない。スクールバスの関係では、(小で)2kmを超えるとスクールバスを出しているが、中学生は部活もあるため路線バス利用となり、通学定期代を全額補助している。全市で(再編により)通学距離が長くなるので、スクールバス、路線バスの利用は考えていかねばならない。</p> <p>2kmを超えると必ずスクールバスを出すということではなく、定期代助成とスクールバス運行の2通りのやり方があります。スクールバスは銭小、長小、忍小の3校で運行しています。</p>
	<p>6 統廃合により教職員数はどうなるのか。</p>	<p>校長、教頭そして学級数減で全体の教員数は減るが、1つの学校としては規模が大きくなるので、一定の教員数は確保できる。中学校では小さな学校では先生は努力して専門外の教科も見ているが、やはり先生には専門の教科を教えてもらいたい。小学校では、学級数が倍になってもストレートに先生は倍にならないので、全体としては減る。しかし、学年で2人いると行事の分担や相談してできるので、一定の12クラス程度が必要と考える。</p> <p>定数のことだが、(小で)6学級と12学級を比べると2倍にはならない。しかし、定数と学級担任の差し引きでは、学級数が多くなると(担任をもたない)自由になる先生が多くなる。</p>
	<p>7 学校が減っても特別支援教育などで教員の手当を厚くした方がよいのではないか。</p>	<p>配置基準は国の法律で決まっている。それを受けて、先生の身分は北海道に所属しているが、道教委が通常の学級、特別支援学級の配置基準を決めているので、独自に基準の上乗せとなると小樽市で採用する形だ。今の状況では、独自に採用する制度を持つことは難しいと判断している。</p>

南小樽ブロック

会場	参加者からの質問・意見		教育委員会からの説明
奥沢小	8	(意見)現状は分かるが、15年の計画期間の中で、国の施策の変更も考慮してはどうかという意味だ。	全国市長会や教育長の団体で国に35人学級、少人数指導を要望している。道教委の研究事業で小1・2、中1で35人学級を行っているが、2クラス以上が対象。桜小学校で35人学級だが、多くの学校が1学年1クラスなのでこの制度該当とならない。そういう部分も含めて一定の学校規模を確保したい。
	9	南小樽ブロックは昔は人口も多かった分、減少が急激だと実感している。学校(配置)適正化の他市の取組はどうなっているのか。	道内10万以上の市が10市あるが、ほとんど再編に手をかけざるを得なくなっている。後志郡部の学校が(元から)少ないが町でも行っており、札幌市は中心部のドーナツ化で4校を資生館小学校に統合するなど、北海道に限らず全国的な流れにならざるを得ない(ほどの少子化という)状況だ。 札幌市で小規模校は20%弱。小樽は70%。そういう規模(割合)でも年次計画で進めている。旭川市は40%だが、17年度から計画に入っている。帯広市も再編計画を持っており、函館市も去年基本方針を決めた。それぞれ道内各市では小規模化にあわせた適正化の計画を進めている。
天神小	1	人口減少で26年度以降、さらに学校統合の話が出てくることになるのか。子供が少ないから、耐震基準に合わないからということだが、小樽市は今後どうしていきたいのかということまで考えなくてはいけない。回覧で見た時に、中学校1校なら向陽中がなくなり、小学校では地域的に奥沢と潮見台が残るだろうと思った。人が少ないなら豊倉小や忍路小はもうなくなっているはずだが、まだあるというのは、小さくても学校として機能しているから残していると思う。そうすると、人数だけで統廃合が行われて良いのかと思う。	15年の期間を設け、ブロックでの子供の数から何校がいいのか素案で提示した。26年度、27年度の推計での学校数だ。この先どうなっていくのかというのは別の話。
	2	6月3日 国の機関では何十年後かの小樽市の人口を8万人規模としている。児童生徒もかなり減り、若者の流出も激しいだろう。また統廃合という話だ。文科省が言うように小学校4km以内の学校となると花園グランドに学校を建ててスクールバス送迎すれば1、2校で済むが、それで本当にいいのか。現状で人口の回復が見込まず、統廃合を繰り返し地域から学校がなくなってしまうことをやり続けるのか。	日本国中で人口が減りどこでも同じ問題を抱えている。小樽では1年間で2000人近く減っている。歯止めがかからず、S33のピークで41000人、H20で8900人。この先も減っていくのかと言われるとその可能性はある。今の学校再編では、現在一定推測できるH26、27をベースに学校配置、規模を算出している。それ以降はその段階で検討することは必要となる。耐震では、阪神・淡路の時に大きな議論になった。東海地方の地震を想定という経過があったが、去年5月の中国・四川の地震をうけ、国も学校の耐震化を急げと補助の基準も厚くなった。41校のうち29校が耐震化が必要で、100棟ほどだ。耐震診断をしながら、一度にはできないため、順番をつけ進めている。学校再編と関連する課題であり、できるだけ早く再編との関係を見ながら進めていきたい。

会 場	参加者からの質問・意見	教育委員会からの説明
天神小		<p>国立社会保障人口問題研究所の資料を紹介する。小樽市の2035年(H47年)人口は83945人。年少人口はH19年14000人台だが、5600人と若い人は非常に減る。人口構成比も9%台から6%台になる推計。今回の適正化計画は15年なので、2035年までの落ち込みにはないが7500人位と確実に少なくなる。ただ、今は現在の推計の中で、学校数を割り出し、学校規模を踏まえて再編成を考える。その先のことは、また皆さんと知恵を出し合っていきたい。</p>
	<p>3 住吉中と東山中と菁園中の統廃合の時に3学級程度でスタートしたはずだが、翌年に2学級になった経緯があったと思うが、どういう学級数の推移になったのか。</p>	<p>住吉中の受入れ校は菁園中と潮見台中。東山中は菁園中と松ヶ枝中。石山中は末広中と西陵中。西陵中はH12は6クラス、H13・14は9クラス、H15に8クラス、H16に7クラス、H17からは6クラス。菁園中はH12に6クラス、H13に9クラス、H14・15は10クラス、H16～H19は9クラス、H20に10クラスで推移している。</p>
	<p>4 統合前の生徒数は何人か。</p>	<p>西陵中はH12年223人、H20年185人。菁園中はH12年208人、H20年316人、末広中はH12年6クラス163人。その後9クラスになったが、減少し現在は6クラス194人。</p>
	<p>5 最初に思っていたような人数でないと思う。3(校の)クラスが一緒になった菁園でさえこの結果だということを考えると、学校は人数ではないのではないのかと思う。町場でも小中学校(併置)があっても不思議ではない。小、中でそれぞれ統合というより、小中高でやってみるかという思いつきでもよいのではないか。</p>	<p>他地区でも、子供の数が少なくなるので、小と中を一緒にしてその中で子供同士の交流もできるのではないかという提案もある。具体的な話になると、特に中心部では、いくら少ないとは言えそれなりの子供がいるので、小中学校となると教室数、グラウンドの割り振りなど学校施設の面で物理的に難しい部分がある。今回の再編計画では小中学校を一緒にする前提ではないが、22年度からのブロック別協議の中で統合の組合せの話をするので改めて話をしたい。</p>
	<p>6 バス通学をする場合、今やっている定期代助成を全面的にやるのか。天神小のPTAをやっていた頃、歩道除雪のことで土木(担当部署)と話したこともあるが、広範囲になると通学路は神経を使わなければならない。子供のことを考えるとゆとりのあることをしてあげなければならない。地域として元気な子供の通う姿を見て、各世代がそろい地域が成り立つ。子供がバスで通うとそういう地域の話がなくなり、年寄りだけが残る町になる。そこに学校があることで違う考え方ができるのではないか。地域から学校をなくさないでほしいという気持ちだ。</p>	<p>スクールバスの関係だが、H19から小でスクールバス運行、小中の定期代通年全額補助の制度とした。学校再編では通学距離は長くなる。忍路方面の例では塩谷小まで5km、塩谷小から長橋小まで5kmなので、一定の基準で定期代補助、スクールバスはやらなければならないことだ。全市では400人位スクールバス、バス助成の対応をしている。冬の除雪は、通学路は手厚くやっているが、それで100%だとは思わない。歩道も道路幅が狭く坂もあり、構造上作れないところもあるので、路側の白線で区分する手立てもしている。素案7P、8Pで統廃合する場合の対応、12Pで再編を進めるに当たっての議論項目を記載している。中心部と忍路、塩谷などでは条件が違うので22年度以降の議論の中で、要望等を十分聞きながらできるものについてはやっていく。</p>

南小樽ブロック

会場	参加者からの質問・意見		教育委員会からの説明
天神小	7	<p>小さな子がいて来れない人のために説明会では託児所を設けてほしい。もっと参加する人も増えると思う。天神地区ではないので、地理的には分からないが、資料の地図では向陽中は潮見台中より距離では松ヶ枝中が近い。また奥沢小と潮見台中がブロックで中心になるから、どちらかを中にして、どちらかを小にするとか、敷地は天神小が広いなど、どういう基準で統廃合となるのか気になる。例えば、中で反対があるから残そうとか、中を残すなら小を別の地域にするのかなど、具体的な案があるのか。</p>	<p>子供の数や校舎建築年数もブロックごとに状況が違うので、一律の統廃合の基準を設けるべきではないと考える。そういうことから素案は、再編の規模の問題、統合は学校の資産を活用、実施時期は地域と話し合い必要度に応じ前後期の15年の中でやるという大枠。その辺で市民合意を得たい。22年度以降、ブロックごとに通学路など地域と話をしたが、地域に長く住んでいる方や入学前の子供の親も入ってもらいたい。そういうことから今の段階で基準はないが、12Pで「学校再編の進め方」を8項目出している。これらを素案で出し、合意にもっていきたい。それから具体的話にしていくという手順を踏んでいきたいと考える。</p> <p>13Pに来年度以降の実施計画策定のことを載せたが、(2)で統合の組合せ、統合校の位置、そして通学区域の見直しとなる。奥沢小の例では、入船小の校区で奥沢小が近いところもある。学校の位置が決まれば通学区域の見直しとなるし、ブロックをまたいでということもあり得る。今回は再編の進め方について話をしており、その上に立ち実施計画を作る具体的な議論を来年度以降する。託児について検討したが、場所の確保、人の手配が41のどの会場でもとなると対応できない。平日出られない方は日曜日の教育庁舎にも参加してほしい。</p>
	8	<p>「お知らせ」は学校や町会回覧で回ったが、冊子は会場で初めてという形なので、事前に学校から見せて、質問をもらい答えるなど、円滑に話を進めていくためにもう少し工夫がほしい。</p>	<p>冊子は一人ひとりといかないが、概要版は小中幼保の家庭に配り、回覧板でも回している。冊子は学校、PTAに数部ずつ配布している。情報は皆さんが触れやすいような手立てを今後も考える。説明会の質問や意見は随時ホームページに掲載しているが、発言者のプライバシーもあるのでこの会場からということまではできない。</p>
潮見台小 5月20日	1	<p>25年に若竹小入学予定だが、在学中に学校が変わることとならないか。</p>	<p>南小樽地区は5小学校が2校となるが、どこの位置になるかは来年度以降の議論。その議論を踏まえいつ実施するかを決める。この地区は前期8年間でやるので、25年度入学ということでは在学中に変わる。22年から再編の議論を進めるが、仮に24年に再編となれば、(当初から入学先は)新しい学校。今から変わるかどうかについては答えられない。</p>

南小樽ブロック

会場	参加者からの質問・意見	教育委員会からの説明
潮見台小	<p>2 22年度に統廃合となれば、それ以降は新しい学校に入学ということか。また、(統合が決まっても)無くなるまでその学校に通うことになるのか。</p>	<p>22年度に計画が決まっても、(再編する時期までには)一定の時間がかかる。子供同士の交流、保護者同士の話し合いや新しい校名となれば時間はかなりかかる。A校が無くなると決まっても、(統合までの間は)校区の学校に通うことになる。そこで12P⑧「在学中に統合となる入学予定者は、再編後の新たな通学区域や通学距離を考慮した特例」を設ける。統合で移る時に皆で行こうという考え、(仮に)3年後に統合なら最初から行こうという考え、通学距離、友達のことなど色々な考えがあるので、そういう意見については弾力的な対応をする。</p>
	<p>3 今回の計画が頓挫しても大変なので、前回の計画案取下げまでの経緯を教えてください。</p>	<p>前回は、地区を絞って進めた。今回は市内全体を見渡せば(急激な少子化の進行から)、地区を限定して(適配のことを)話す段階ではない。前回のときに、市内の他の地区も同じに考え計画を練り直すべきという意見もあり、結果として、教育委員会も前回の案を取り下げて、もう一度全体の再編成の考え方という立場に立った。前回の(地区を限定した)考え方を、全体化する視点に変えた。</p> <p>簡単に言えば、堺小の保護者には理解されたが、他の学校の方には十分理解が得られなかったということだ。どこの部分が理解されなかったのかということだが、それぞれの(対象となった)学校、地域で違いがあるため色々な理由となっただろうが、子供が減る中で適正配置は絶対しなくてもよいという意見ではなかったと思う。ただ、手宮地区、ここの地区ということで(適正配置の対象校を)絞ったが、南小樽地区では、同じような規模だった奥沢小、天神小は対象にしなかった。なぜ、という意見が相当あった。もう1つの要件として、H16年から950人前後の出生数が一気に750人台に落ちた。そういうことから、地域個別にではなく全市的に見て、素案で41校を6地区に分けて議論していくスタンスになった。</p>
	<p>4 これだけの少子化で、学校を減らすのは仕方ないと思う。(小学校計画案の)当時、色々な署名の依頼が来た。3種類くらいあり、最後には政党も絡んだと聞く。地域が巻き込まれたような気がする。あのようなゴタゴタにしないようにしてほしい。</p>	<p>地域の中で、憶測も含めて意見が飛び交うのは私たちの本意ではない。今回、このような説明会を42か所で開催し、秋にパブリックコメントの手続きをして、22年度から地域に入り具体的な統合の組合せ、時期について住民と話し合いを持ちます。憶測が先行することを避けながら、共通の基盤に立ち話し合うことを心がけます。</p>

南小樽ブロック

会場	参加者からの質問・意見	教育委員会からの説明
潮見台小	5 校区の線引きは決まっているという噂が広がっているが。	<p>線引きはしていない。(現段階は素案に示した)6地区に区分し、最終的な学校数ということがすべてです。通学の利便、新しく土地を求められないなかで5校の中の2校をどうようにしていくのかなどは最終的には皆さんの合意をとって進める。噂は全く根拠がありません。</p> <p>小12クラス、中9クラス以上の学校をつくとすると、6地区ごとに何校になるかを素案で示しているが、この素案は年内にまとめた。22年度からブロックごとの実施計画を作るが、統合の組合せ、統合校の位置、通学区域、統合の時期、配慮する事項を議論する。今の段階では、頭の中で想定するが、22年度の実施計画を作る中で協議したい。</p>
	6 子供の数が減る中で、学校数を減らすのは仕方のないことだと思うが、災害時の避難場所をどうするのか。また、跡利用についてはどうか。学校の跡を避難場所に使うことを考えているのか。高齢者が多くなり、避難場所が遠ければ厳しい。	<p>素案基本方針8P⑦で廃止となる学校の跡利用について記載した。基本方針なので具体性を持っていないが、地域での話し合い、協議会を設置するがその中で大きな話し合い事項だ。学校の規模、再編成の課題とイコールとはならないので、同じレベルの記載ではないが、基本方針には載せています。</p> <p>南小樽地区、中央・山手地区では学校間距離が1km圏内で割と近距離。再編しても学校が全部無くなるわけではないので、中心部の避難所は一定程度手当てできる。小樽全体ということでは、塩谷・長橋地区の学校間距離は、忍路小中は近いが、塩谷小まで5km、塩谷小から長橋小まで5km。周辺部の避難場所の問題は、教育委員会だけではなく市全体の課題です。</p>
	7 統廃合で、例えば、潮見台中と向陽中が(地区の)端にあるので、真ん中の奥沢小を新しい中学校にというように、小学校を中学校に変えるということもあり得るのか。	15年かけて、41校を21校に統合するという素案だ。(差の)20校をお互いに学校施設として転換することは、通学区域を考慮した考え方として成り立つ。このブロックでどうかということはまだ話せる段階ではないが、一つの方法です。
	8 統合で通学に路線バスを使う時、路線経路からバスで通いやすい場合は変更できるか。例えば、若竹校区から、この地区の統合校が向陽中になった場合、2路線乗り継ぐ向陽中より、1路線の青園中の方がバスでは通いやすい。	<p>中学校では各ブロックで1校というのが多くなる。中心に位置していればよいが、そうでない場合はブロックをまたいだ通学区域もあり得る。今の話の青園中を良しとすることは別にして、ブロックの中で(校区が)まとまりきれない話はあると思う。</p> <p>素案12P④「統合学校の場所」の考え方を記載した。大きな再編計画なので、通学距離が長くなる。交通の利便が条件になり、単純に距離が近いということではなく、公共交通機関の便というのも要素。もう一つは、立地を考えれば、高い場所にある学校もあり、(統合で)空く(小)学校を中学校として使う、敷地に学校を建てるなど色々な考えがある。基本計画の後、22年以降地区で協議しながら進める。</p>

南小樽ブロック

会 場	参加者からの質問・意見		教育委員会からの説明
潮見台小	9	地域として、学校には思い入れもあることから、再編に際しては学校名も一新してはどうか。	12P①に関連するが、統合の対象校はいずれも廃止した上で新設校として設置する新設統合も視野に入れて考える。これは、新しく建て直すというやり方もあるが、どちらかが閉校ではなく両校とも閉じて、新しい学校名で誕生する新設統合ということもある。道内の他都市でも学校統合をやっているが、室蘭市では2年に1校の統合の際には学校名を変えている。札幌でも4校を資生館小にしたように、住民感情を考えれば、学校名を変える中で、息吹を吹き込むというやり方もあるので議論を深めたい。
	10	(意見) (学校名一新の質問に対する説明に関連して) 素案の文章では、新しく学校を建てるということもあると思ったので、この書き方は良くない。	案については、次にパブリックコメントを予定しているが、今の意見を踏まえた表現を考える。
	11	この会場で保護者が少ないことに驚いている。保護者の間ではもう決まっていると考え方が多く、こういうところに参加していないので、市の方針が伝わるか心配。5, 6年前の会合の時ほどのくらの出席だったのか。(私は)町会回覧や市広報でも見たが、(この少なさから)伝わるのかなと思ったものですから。	小学校の適正配置の時に、この潮見台小学校でも説明会をしたが、地域を含め20名ほどだった。量徳小と潮見台小の統合計画について聞いてもらったが、そういうことから今回は少し少ない。「お知らせ」(あらまし版)を、小、中、幼、保に全家庭配布したほか、教育委員会ホームページに説明会での質問、意見を掲載して(計画の概要について周知を図って)いる。

会場	参加者からの質問・意見	教育委員会からの説明
<p>若竹小</p> <p>6月25日</p>	<p>1</p> <p>来られない保護者の声を預かっている①素案では今在籍する子供の教育環境には関心がないように見える。早くにこの計画を進めて今いる子供たちが恵まれた環境で教育を受けられるようにしてもらいたい。②若竹小では町内会が寺子屋若竹、子供の居場所づくりに取り組んでいるがこれは1町1校だからできるもので、町内会がたくさん関わると進まなくなる弊害が出る。(再編は)それを邪魔する形になる。③最後は私の意見だが、学校の老朽化は子供たちは関係ないこと。適切な時期に改修や改築をしていけば耐震に対応できた。これを一つの柱としてあげているが負の財産と認識している。</p>	<p>①③学校の教育環境は色々な面がある。老朽化も含め施設も教育環境だし、教育内容、先生の配置数、1クラスの人数もそうだ。今回再編を進める理由を5、6Pにまとめた。1学年1学級が多くなり先生方は努力して取り組んでいるし、小さいから良い部分もある。教委が考える学校規模として6Pに挙げた4項目をやるために一定の規模が必要。そして教職員の確保が必要だ。教育環境の校舎の部分ではS47年建築が大半で、すでに36、7年経っていて市内でも古い方。40年以上経つと建て替えを考える時期だが、全体の建て替えが遅れている。特に昨年の中国の大地震以降、耐震化は強く求められている。一方では小樽市の財政事情があるので、学校を新築すると40、50年のスパンで使うという意味で素案を示している。確かに改築などをしていけば問題なかったのだが、毎年1校ずつ建てても、40年かかるという現実を理解、協力をしてほしい。②若竹小の寺子屋だが、水産高校生徒の手伝いもあり、勉強や遊びを入れたものと聞いている。そのような地域の活動はありがたく、色々な学校で、読み聞かせ、学校花壇整備、安全パトロールなどの支援がある。若竹小と若竹町と極めて近い部分で活動しやすさがあることは理解するが、子供が減る中で学校再編は進めなければならない。地域と学校が連携した取組は校区が広がったからやめるということではなく、条件が変わるので克服することはあると思うが、作り上げた地域と学校とのつながりという財産は引き継いでほしい、教委も手伝っていききたい。</p>
	<p>2</p> <p>特別支援学級の1クラスは何人までか。現在はマンツーマンで恵まれた環境だが統合では個性や特徴を考えて手厚く配置してもらえるか。放課後児童クラブは適正に検討してくれるのか。通学が遠距離の場合にバスを走らせるのか。</p>	<p>特別支援学級の定員は種別ごとに1クラス8名。小学校で開設ないのは4校だけで、近い学校に開設している。統合した両校で2人になることはあり得るが具体的な中で話をしていかなければならないと思う。放課後児童クラブは統合で利用者が多くなったため入れないという状況は避け、2教室での対応も含め預かる体制は作る。現在でも400人がスクールバス、路線バスを使っている。多くは長橋、銭函方面で、小は2km以上、中は3km以上の基準。学校再編では通学距離が長くなる場面が出るので対応はしていく。</p>
	<p>3</p> <p>孫がこの学校に通っている。この後の大事なことだと思い説明を聞きにきた。再編は機械的にやらないのことが、ぜひそのように徹底した住民合意の下で進行してほしい。</p>	<p>可能な限り合意できるようにしたい。進め方は、説明会をやり今年中にこの計画をまとめた。この計画ではブロックごとに学校数は示しているが、どの学校とは言及していない。22年度から具体的な話をするができれば複数のプランを示して議論するような手順で進める。話が進んで、一緒になる学校ではどういう事前の交流をして、中学校では制服をどうしていくのかなど協議する課題があるので、統合に至るまでの下準備の協議をしなければならない。ですから、今回は学校をこう分けてここに示して、その実施時期はいつにするという計画のつくりにはしていない。市内41校でやるので一律に実施時期を決めて一斉スタートとはならず、6ブロックでそういうことも含め議論する計画です。</p>

会場	参加者からの質問・意見	教育委員会からの説明
若竹小	<p>4 8年間の中で早ければ4年後から変わるとか、15年かかる場合とかあるのか。</p>	<p>前期といっても8年後にすべて一斉にということではない。ブロックで仮に2年後の統合でまとまればそれに向けた準備をする。12P②にあるように、小学校の統合で学校が変わった子供が、中学校でまた変わることは基本的に避けたいので、前期で先に小学校をやれば中学校は後期になることもある。少子化が進んでいるわけで、議論はスピーディにやりながら、実施時期では前期にすべてやるという立場ではない。もう一方では、統合場所の学校が築40年経っていれば建て替えも考えるが、相当の費用が必要なので一気に4校、5校とはならず年次的に考える。</p>
	<p>5 この問題では「共感力」が一番大事だ。学校では色々な行事があり子供たちがどのように頑張り、楽しく過ごし悩んでいるかつづきに見ていないし、こういう場でしか会わないから私たちと教委に間に共感できるものはない。もっと共感できる場所をつくり一歩踏み出す方が良くと思う。子供たちが子供達の目線で何を感じてたくましく育っているのかしっかりと共感してくれなければ何も始まらない。</p>	<p>H20年度まで菁園中、その前は堺小にいたので、適正配置の子供のことを目にして聞いているし、保護者ともたくさん話をした。若竹小学校には指導室から指導主事が授業の様子や行事に顔を出し、出来る限り学校や子供の様子を見ているし、大事なこと。校長の経営方針の聞くなど、若竹の子供の様子を情報を入れているし、目でみるように心がけている。市内41校すべてで、現場の声、子供たちの顔を見ないで仕事はできないのでできることはしたい。今後適正配置が進む中でないがしるにははしません。</p>
	<p>6 学校が少なくなった場合、就職難の時代にこれから上がってくる先生方を受け入れられない。今の先生も含めどう考えているのか。</p>	<p>41校が21校に減る計画だが、これだけ学校が小さくなっていく中でどうにかしようということで作ったので、先生方の職場を守るためではない。全国的に少子化が進み、先生も団塊の世代に入っているのでも相対的には先生の数は減るだろう。もう一方で、教育長の会議でも35人学級などで1学級の単位を減らせばクラス数も多くなり先生が必要となるのでそういう要求をしている。しかし、再編計画をやると先生が少なくなるからやらないという考えはない。</p>
	<p>7 学校を少なくすることに反対していない。これから入ってくる先生の立場を考えれば、半分までしなくても1/3というような方法は考えられないのか。</p>	<p>資料編にあるようにH10からH15まで出生数は950人前後で推移していたが、H16から900人台を割り込み、それ以降700人台。H16生まれが小学校に入るのがH23で更に小規模化が進む。そういう中で一定の規模を維持するため再編をする。その仕方は、何年から一遍に半分にとということではなく、相当な時間がかかると思う。小12クラス以上、中9クラス以上の基準から説明の学校数とならざるを得ないので理解してほしい。</p>
	<p>8 下の子供が来年入学だが、統合はいつかなるだろうと思うが、本当はいつからやるのかが知りたいところだ。3人子供がいるが、どの子供が関わるのか具体的なことが知りたい。</p>	<p>どのような組合せ、実施時期について今言う材料は持っていないので、来年度以降の協議で進めるが、仮に夏ごろに決まっても次の年からとはならない。実際議論には時間がかかるし、統合の準備もあるので、一定程度の幅は出る。また、数年後にやると決まれば、その前に入学するお子さんは最初から統合する学校にと考えることがあると思う。校区があるのでその学校に入学というのが基本だが、12P⑧にある一定の特例を考えなければならない。統合がいつだと聞かれても、統合対象となるかどうか分からないので次の段階になるが、統合まで一定の期間をみる、決まった段階でも色々な議論をさせてもらおうと思っている。</p>

会場	参加者からの質問・意見	教育委員会からの説明
向陽中 5月26日	発言なし	
潮見台中 5月28日	1 検討委員会の1クラス30人程度が良いという理由が把握できないので、客観的な資料があるのか。今の学校で地区を区切っている、1つを抜くとバランスが悪くなり、残った学校を中心に校区が変わることはどうかと思う。小規模、大規模のよいところがありどちらとも判断しづらいが、一方的に同じ規模の学校を揃えるのではなく、どちらに行くか選べる方法をとるとい選択肢もあってよいのではないか。学校評議員で地域の要望、地域の支援という話になっており、(統合となれば)サポート体制も難しくなるので、適正配置が進めば、地域の協力体制をとることが必要だ。	教育委員会の考えを述べる。(1点目)学級人数の優位性の客観的なものについてだが、(学級人数について)単一的に、大きい方が良く、小さい方が良いという評価自体をしていない。客観的に出すという意味では、同一の問題、課題を出す全国学力・学習状況調査のような形でしかできないが、その結果でも良い悪いという結果になっていないだろう。30人程度としたのは、40人授業では先生の目が届きづらい。一方、算数や国語は一定程度少ない人数の方が良く、音楽や体育は少ないより一定の集団でやった方が良く。そういうことで30人程度となった。先生の過重な労働ということも含めて全国の教育委員会や市町村の連合体で35人学級の要望をしている。各県で少人数の試行をしているが、北海道では2クラス以上の小1、2年、中1を該当とする35人学級研究事業がある。やはり少人数学級、少人数指導は求められることだが、どこまで小さければよいのかということで、検討委員会からは、現状で30人程度が望ましいという意見の答申だった。小樽の平均は小学校で27人だが、1クラス10数人から40人の人数の結果であり、基準として35人学級というような制度を(国の施策として)作ってほしい。質問の客観的なものは具体的に出せるものはないと思う。(2点目)市内で色々な条件があり一律な議論はできないのでブロックに分けた。南小樽地区には5小学校あるが、学校数減で校区も変わる。ブロックの中だけではなく、狭間のところは隣のブロックとの調整が出る。ブロックの間にある色内小や入船小のようなところでは、ブロックの中で学校の数、位置で一定の合意が出された後、どういう校区がよいのかという議論で、ブロックを超えた校区の話しが当然出るだろうと考える。(3点目)素案で(望ましい規模の学級数の)基準を出したが、議論をした結果、平均的に皆同じクラスになることはあり得ないと思う。12クラス、9クラスの理由は、5、6Pにある。複式も含め小さな学校の良さは認識しているし、新聞記事となった忍路小の田植えなどは地域性があり小さな学校だからできる活動だ。6Pで望ましい学校規模の考え方を4点あげたが、それらは学校の先生の努力だけではやりきれない部分だ。説明会では子供が減って(再編を)考えなければという意見や地域の学校は小さくても必要だという意見が出されている。教育委員会は、ここ(6P)にあることを進めるためには一定の規模の確保が必要と考える。

会場	参加者からの質問・意見	教育委員会からの説明
潮見台中		<p>資料編の出生数のグラフを見ると、15年までは950人程度の推移だが、16年から減少し、昨年は750人程度。15年と16年の差が120人で6年間の学年進行で700人。その児童が3年後に中学校に進む。小中学校の少子化が全体としてさらに進むことになり、15年という長い計画期間を持った。学校選択制を採る考えはないが、再編を進めた結果として、子供の状況、保護者の考え方という中で、小さい学校が残るという一定の判断があっても問題ないと思う。(4点目)地域と学校の繋がりに関して、ずっとここに住み続け大事にしているという発言が(他会場)あった。新しい学校では新しい地域との連携も必要。手宮、色内地区でPTA、学校、町会の協力で「学校地域支援本部」の取組がある。今の形の地域との関わりは薄くなるかもしれないが、新しい形で作ることも考えなければならない。</p>
	<p>2 地域の理解が得られなく、適正配置が偏ることにならないか。反対が多ければ学校は残るのか。学校が廃止されると避難所はどうなるのか。通学距離が延び、帰宅時間や塾の時間など保護者が悩むような問題が出ると思うが、参加者が少ないので、皆さんは関心がないのだろうか。</p>	<p>参加人数は多くないが、多いから、少ないからではなく、できるだけ(意見などを)聞いていきたいし、色々な形で考えを伝えたい。11年から適正配置を進め、中学校は地域の了解を得て3校統合した。15年から小学校に着手し、堺小は統合したが、理解が広がらなかったため手宮地区、量徳小の計画は取り下げた。その時に、地区のことや学年のクラス数について意見をもらった。出生数が(以前以上に)減少し、全市的な計画素案を作った。反対されれば前回のように取り下げるのかと言われても困るが、前回理解が得られなかった部分も含め一定の学習をして、計画を考え説明している。前回は通学距離を決めたが、今の状況では距離だけでは(検討対象から外すと)言えない。(ある程度通学距離が延びることは)今でも相当数の利用児童生徒はいるが、スクールバスと路線バスで補う。路線バスは定期代補助、小学校で一定の人数の場合はスクールバスでの対応。避難所は中心部は学校の距離からそれほど影響はないが、忍路や張碓などの周辺部は代替施設の問題があり、全体の跡利用の中で、避難所をどうするかは教育委員会だけの課題ではなく、地域の中で考えたい。例えば、閉鎖した学校を町内会館で使い、体育館は避難所にするなど色々と考えなければならない。</p>
	<p>3 (意見)スクールバス(の対応)に関してもそうだが、無くする前提で、それに対する工夫ばかりに思える。残したままで子供たちを育てられないか、その中で工夫できないか。少子化が進むので、1クラス20人で4、5クラスつくる方が今後のために良いのではないか。各学校は1つのクラスという発想で、算数は少人数の授業を行い、(少人数では教育効果が出にくい)音楽は隣の学校と合同でやるとか、インターネットを使う授業など、時代が変わり状況も変わっているから、違った発想でできないか。今までの範囲の中での工夫ではなく、時代背景にあった工夫も必要だ。</p>	<p>後段の、隣の学校との合同授業は提言として踏まえる。(小規模校の)先生は相当色々な工夫、苦労があるだろう。高校ではキャンパス校の考えもある。本州では3つの村で1校というところもある。1点目の20人学級だが、市が独自で先生を雇用するところまでは踏み込めないのが現状。</p>